

④【質問者：子ども議員 高木 心晴さん】

「関ヶ原町のバリアフリー」について提案します。

私たちは、関ヶ原町を障害者の方や高齢者の方が暮らしやすい町にするためにできることは何かを考え、学習してきました。調べてみると、関ヶ原町は、高齢者の方や障害者の方が過ごしやすいように様々な工夫がされているとわかりました。例えば、ふれあいセンター、役場、公民館での車椅子の貸し出し、エコミュージアムや関ヶ原駅前交流館のスロープ、車椅子マークの駐車場、マークトイレ、手すりなどです。

しかし、関ヶ原町はこの5年間で約800人も人口が減り、人口に対するお年寄りの割合が年々増えているのが現状です。また、関ヶ原町には、エレベーターのある建物が少なく、高齢者の方や障害者の方は苦勞して階段を上ることになってしまいます。他にも、ふれあいバスにはスロープがないため、高齢者の方や障害者の方はバスに乗り降りすることが難しいです。そこで、私たちはお年寄りや障害者の方がもっと安心して暮らせるような町になるために、2つのことを提案します。

1つ目は、高齢者の方や障害者の方がふれあいバスに乗り降りしやすいようにスロープをつけることです。以前、バスの運転手さんに取材したところ、バスにはスロープがついていないとのことでした。しかし、様々な人が乗り降りしやすいようにステップがついていることがわかりました。ですが、ステップがついていても、乗り降りしにくいという人のために、バスの入り口にスロープをつけるのはどうでしょうか。そうすることで、高齢者の方や障害者の方も安心してバスに乗ることができます。また、バスにつけるスロープを屋外の段差にも対応できる手動のものにすることで、かかるお金を少しでも減らすことができ、運転手さんも準備しやすいと思います。

2つ目は、関ヶ原駅にエレベーターを設置することです。高齢者の方や障害者の方は、駅のホームへ行くために階段をいくつも上ったり下りたりしなければなりません。そんな苦勞を無くすためにも、エレベーターを設置するのはどうでしょうか。エレベーターがつくことで、高齢者の方や障害者の方だけでなく、私たちも移動が楽になるため良いと思います。しかし、エレベーターを設置するにはとても費用がかかると知りました。そこで、エレベーターやスロープを設置するために、募金活動をするとう良いと思います。募金箱は人通りの多い関ヶ原駅、ふれあいセンター、役場、古戦場記念館、公民館などに設置すれば良いと思います。また、赤い羽根共同募金の活動の1つに「お年寄りが地域で健康に楽しく暮らしていけるように」があります。関ヶ原小学校でも、毎年赤い羽根共同募金を行っているので、そのお金も使ってもらえれば良いと思います。

以上の提案について、町長さんの考えをお聞かせください。

【答弁者：町長】

それでは高木議員のご提案についてお答えします。

専門機関が発表した「日本の将来推計人口」によりますと、関ヶ原町の65歳以上の方の割合が、皆さんが40歳近くになる2050年には約55%になります。つまり町内人口の約半数が高齢者となるという内容が出されております。

まちが活力を維持していくためには、元気な若者はもちろん、お年寄りも障がいを抱えている方も、1人ひとり誰もが意欲・能力を発揮し、社会に参加できる環境をつくるのが大事です。

この関ヶ原町役場の庁舎につきましても、エレベーターや段差解消、多目的トイレなど、誰もが使いやすい施設として建てられています。

今回、ご提案いただきました1つ目の「ふれあいバスにスロープ設置」についてですが、現在のふれあいバスの乗降口には、電動補助ステップがついており、ドアが開いた際に補助ステップが出てくる仕組みになっており、安心・安全にご利用いただくための工夫はされております。手動のステップについては、急な角度では滑ってしまい危険ですし、逆になだらかなスロープでは、場所をとってしまい、車に乗るのが不便となると思います。また停車する場所の段差や地形により、設置が安定しない場合があります。どのような方法であれば安全に、そして便利にスロープが利用できるようになるか調査したいと思います。

2つ目にご提案いただきました「関ヶ原駅にエレベーター設置」についてです。このことは私も進めたいと思っておりますが、様々な課題があり、それをクリアできない状況であります。その上で階段の半分をスロープにというご提案につきましては、今の階段の傾斜で半分をスロープにすると、車椅子の方が利用するには傾斜がきつく、上り下りの際に事故の危険性が高まるため、安全性を考えると難しいと考えております。

費用についてですが、クラウドファンディングというような募金で集めるという方法もございますが、ご提案いただいた赤い羽根募金は民間の社会福祉施設や団体に配分されるものであるため、町や駅で利用することは、できないことになっておりますので、別の方法を考えていきたいと思っております。

現時点において、最善であると想定しておりますのは、1日当たりの平均的な利用者数を2,000人以上達成し、JR東海が中心となり、進めていただくことが、駅利用者の方が利用しやすいバリアフリー化ができると考えております。

関ヶ原駅の1日平均の利用者数は2022年度が1,642人でした。人口減少の影響もあり、通学や通勤など定期利用の数を増やすことは厳しいですが、観光客など通勤や通学以外で利用していただく方を増やせないか、イベント等を企画したりなど施策を練っておるところです。

皆さんも家族で大垣や岐阜、または名古屋に遊びに行く際、電車を利用していただくなど、是非関ヶ

原駅を活用してください。よろしくお願いいたします。

ご提案ありがとうございました。

では、私から高木議員に質問させていただきます。

関ヶ原町の1日平均の利用者数を増やすためには、一時的に利用者が増えることより、毎日の利用者が増える必要があると思います。毎日の利用者数を増やすためのアイデアは、何かありますか、教えてください。